

さ ざ ん か

第81号、2008年7月

梅雨明けが例年より早く、夏の訪れも早くきました。連日、猛暑というにふさわしい暑い日々が続いていますが、みなさまお変わりなくお過ごしでしょうか。

地球は暑くなっていっているのに、なぜかわれわれの心は冷えていくばかりです。たとえば医療に関して。高齢化社会は困った問題であり、これを何とかしないと世の中は上手くいかない、という論調に染まりきっているような気がします。本当に高齢化社会はまずいのでしょうか。私にはそうは思えません。みんなが長生きできる社会はとても素晴らしい社会で、戦争のために、志半ばで死んでいった、もしくは死なざるを得なかった若者達が居た社会から比べると何と幸せな社会でしょうか。あるいは戦時中でなくても戦後の食糧難の時代に栄養失調の上に、十分な治療を受けることも出来ずに死んでいった人達もたくさんいたと聞いています。

戦争を経験し、戦後を乗り切ってきた今の高齢者達を、「医療費が多くなると国が滅びる」という医療費亡国論にとりつかれた優秀な厚生官僚のひとたちが、いともあっさり切り捨てようとしています。体調が悪くて長く入院するとまるで医療費（税金）を食い尽くして無駄遣いしているような論調です。（介護型療養病床の廃止、リハビリの制限など）

目に見える効果のないリハビリはムダだといっています。つまり、リハビリをしてもたとえば、歩けるようにならないとリハビリの意味はないと彼らは言っているのです。しかし、高齢者は現状を維持するだけでもリハビリテーションは必要なのです。現実には、歩けない高齢者がリハビリをして歩けるようにならなくても、寝たきりにならなければそれは評価して余りあるリハビリの効果なのです。何もしないとそれだけで高齢者は弱っていくのは当たり前のことなのですが、それにお金を使うのは「もったいない」といっています。

でも、もっと「もったいない」ことは世の中にはたくさんあると思いませんか。たとえば、日本の公共事業費は一国でサミット加盟国の米、英、独、仏、伊、加の6カ国の合計よりも多いという事実があります。なにも高齢者に高度医療を施せといっているのではありません。せめて命を縮めるような医療政策はとらないでほしいと思うだけです。自然に死んでいけるようにしてほしい。延命は必要ないけれども人為的に命を縮めるような仕組み（後期高齢者医療制度）はなくしてほしいものです。

病院からのお知らせ

- * 外科部長、小児科医師が交替しました。外科部長は中島三郎先生、小児科医師は塗木雄一朗先生です。よろしくお願いいたします。
- * 毎週第3金曜日の血液外来は前院長の野村紘一郎先生の担当になります。
- * 4月から研修医が当院で1年間の研修を開始しております。米澤英理先生です。よろしくお願いいたします。
- * 4月から脳神経外科の外来担当がかわっています。詳しくは脳神経外科外来でお尋ねください。常勤2人体制が常勤1人体制に変わったことによるものです。鹿児島大学病院から応援にきていただいています。
- * 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。
- * MRIで脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることがあるからです。また、脳動脈瘤の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかると予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- * MRIは腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- * マルチスライスCTで、心臓冠動脈造影ができます。心臓カテーテル検査の代わりにもなることもあります。遠方まで心臓カテーテル検査にいられる方は是非ご検討下さい。その他全身の血管撮影に威力を発揮します。人は血管と共に老いる、といいます。MR血管撮影とあわせて利用できます。ご相談は各科の主治医にどうぞ。心臓の冠動脈造影のときは1泊2日の予定でお考え下さい。下肢の血管造影もCT、MRIを利用して可能です。
- * 一階売店近くのロビーに「創作ひばり会」の盆栽が展示してあります。日本人の粋を代表する芸術ですのでゆっくり「盆栽ワールド」をご堪能下さい。
- * 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

知っておこう基本知識

宮園 辰夫

まず契約とは、契約する当事者の約束で、法律で保護するに価するものを言います。それに消費者契約法とかもあります。以前から色々問題になっている「オレオレ詐欺」。株で損をして会社の金を使い込んでしまった、近くに監査があるので金を振り込んでほしい、孫可愛さに年寄りには根拠のない請求に騙される。「振り込め詐欺」会社の部長を名乗る男から、息子さんが会社の女の子に手を出して訴えられているから、示談金をすぐ振り込む様にとか、「架空請求」で裁判取り下げに費用が請求されたとか、インターネットオークションで代金を振り込んだ後で商品が偽物であったり、マルチ商法、利殖商法、なにごとも人事ではない。

「クーリングオフ」等も勉強しておく必要があります。これから増えそうな手には、デジタル放送に伴う工事とか、アスベスト使用に伴う工事とか、火災警報器設置義務に伴う工事とか、緊急地震対策に係る悪質商法とか誠に油断のならない悪質な手口、食べ物にしても偽装。官は官で嘘八百。国民は真面目に一生懸命税金を納め、野郎共の遊興費を納めるようなもの。選挙の時は立っている物は電柱でも頭を下げてください。それを国民は馬鹿だからいくらいじめられても怒る事を知らない。

朝ズバでもみのもんたさんは国民はもっともっと怒らなければ駄目だと一生懸命訴えているのに、此の先、日本は益々駄目になるばかり。医療、介護、福祉、年金すべてに国民は死ぬ外はない。物価はどんどん上がるし、サミットも大して期待もしてない。永い間の資本社会の国ですから、もうぼつぼつ目覚める時と思う。皆さんぼつぼつ頑張りませう。生きているうちはくよくよしてもしょうがないか。余りひどいことを書くと叱られると大変ですから、この辺で・・・

俳句

西屋敷 喜美子

弟の黄泉の国へと 梅雨さ中

庭先に 掛けたる苔や 滴りぬ

花莫産に ぼつんと後期 高齢者

大正末期生まれの父はこれまで83年間の長い人生の中で一度も入院したことがなかった。ただ、さすがに最近では足腰の衰えは隠せず、先日も鹿児島1中の同窓会があった帰り、途中で寄った南州神社の参道で足をもつれさせてつまづき、そのまま前方へ転倒した。頭部を打撲し、頭からダラダラ血を流しているのを見て、近所の人々が救急車を呼んでくれた。脳外科専門病院に搬送されたが、幸いに、頭皮の裂傷のみで脳内出血などの危ないものはなく傷を縫ってもらって（正確にはホッチキスでとめて）そのまま帰宅したようだった。

さてそういうことがあった1ヵ月後、久しぶりに実家にその父の顔を見に行った。その後元気にしてるだろうかといつもの定期便をかねて、気楽な気持ちでいったところ、居間で横になっていて如何にもきつそうにしている。同居している連れ合い（母）に聞くとトイレ（小用）も間に合わなかったりするという。歩行も心もとないらしい。ああ、これはあれだ、慢性硬膜下血腫とか正常圧水頭症とか、そういう頭の病気に違いない、とブラックジャックのごとく咄嗟に診断した。一月前の転倒が原因だろう。

早速翌日には病院に連れて行った。とりあえず頭のCT検査をして診断が正しいことを確認して、場合によっては血腫を取り除く手術も必要かもしれない、その場合はやっぱり2、3週間は入院が必要であろうと、今度は浪速大学の財前五郎教授の如き冷静さで今後の予定をたてた。

病院の救急外来に着くと、すぐにナースが血液の酸素濃度を測定してくれた。最近では手の指先で簡単に酸素濃度が測定できるのである。95%以上あるのが正常なのだが、なんと80%くらいしかないではないか。間違いなく酸素不足の証拠。しかも、けっこう重度の酸素不足である。えっ。なんのことだ。なんで酸素不足？

頭の病気のはずだったのに。酸素不足。肺炎か。まさか。セキも出ない。痰も出ない。熱もない。そんな肺炎はないだろう。うーん、まあ、でも事実は事実。そういえば、東大3内科の故沖中教授も正診率は85%くらいだとかいっていたような気がするなあ。そのクラスから比較すると俺なら30%くらいが妥当かもな。ブラックジャックだったらたぶん100%近いけど彼は症例数が少ないだろうからな。財前教授も肝心なところで見逃したりするしなあ。

レントゲンなどの検査の結果、全くの想定外である肺炎ということが判明し、そのまま入院した。入院予定というその一点においては確かな予測であった。ちょっと、頭と肺を取り違えたくらいである。（あなたねえ、手術では右と左を間違えただけでも大騒ぎなのに、それってあんまりじゃないかしら。ふつう、間違えるか、頭と肺を・・・）

それにしても、転んで頭を打ったり、おしっこが分かりにくかったりと如何にも肺炎とは関係なさそうな症状で発症するのはやめて欲しいものである。病院に連れてくる途中、車の中で、頭の病気の説明などをしながら、あるいは1ヶ月前の転倒のエピソードと絡めながら、こういうこともあるんだよと、あたかも名医のごとく思わせて頼りになる息子だという状況を作ってきたのに、頭の病気と肺の病気を取り違えるようじゃ、医者としてのあるいは息子としての面目丸つぶれである。

かつて、実家で機械に疎いという両親に代わって家電の修理を試みて、却って決定的に壊してしまうこと数回、彼らはもう家電製品のみならず壊れ物の相談事を息子にしなくなった。それと同じように、もう病気の相談や健康相談も今後しなくなるかもなあ、と思ったりもしたが、いやいや、それはないであろう。腐ってもタイ、誤診しても専門医、初診料もとらないしたぶん、当たる確率は低くても相談くらいはするだろうと気をとりなおした。(まあ、今の時代、検査もしないで診断を当てるのは難しいのでは。どんなに優れた臨床経験よりも一枚のCTフィルムの方が上回る場合もあるっていうわ。)

肺だろうが頭だろうが元気になるればそれで良い。どうもただの細菌性肺炎ではなく、間質性肺炎という面倒な病気ではあったが、幸いに優秀な呼吸器科専門医の適切な治療により重症化することなく経過した。途中では、もしかして最悪、裏口退院(死亡)もありえるかもしれない、と思ったりもした。(人間、どういことがきっかけになるか分からないしね。いつか自分にも思いがけないことが・・・という覚悟は必要だと思うわ。でも、冷静さと冷たさは紙一重ってことかしらね。そんなことまで考えるなんて)

入院中は、ここ数年というか、もしかしたら数十年ぶりと云ってもいいかもしれないが、毎日父と顔を合わせるようになった。振り返れば社会人になってからは何日も続けて父の顔を見ることはなかった。当時の父はまだ私の保護者であっただろう。そして、今は、保護されるのは父のほうであり、保護者は間違いなく私である。何が変わったのだろうか。

時の流れは何をどのように逆転させたのだろうか。時の流れは中年であった父を老人にし、当時の青年であった私を中年へと変えた。家庭内の存在という環境の中で、それぞれの距離は、はるかに上にいたはずの父が自分に近づき、やがてどこかで交差し、いつの間にか下のほうに行ってしまったかのように感じたりもする。子供の頃見上げた父は逞しかったしある意味万能の人のようであった。

いま、目の前の父は穏やかであり、万能ではなく、手助けが必要な人となっていた。父に諭されていた自分が、いま父を諭している。いつか、子供達を諭している自分も、子供達に諭される日がくるのであろうか。それが時の流れということだろうか。いつまでも、

幾つになっても子供達を諭すことができるような生き方をしてみたいと思ったりもするが、子供に諭されて、うん、うん、分かっていると、嬉しそうに返事をしている父を見ると、まんざらそれでも悪くないかも知れないとも思う。

退院の日、父をアコードに乗せて帰った。父は帰りの高速道路のパーキングで私に車を止めさせた。3週間ぶりにタバコを吸うという。肺炎にタバコ。火に油。スピード違反に覆面パト。マイルドセブン3mgを私に買いに行かせて、封を開けたばかりのマイルドセブンを一本取り出し、嬉しそうに喫ってひとこと。「今日も元気だ、タバコが上手い！」たぶん、もうしばらく父は長生きするだろうと私は確信した。

からっぽ

頭を

からっぽにする

胃を

からっぽにする

心を

からっぽにする

そうすると

はいつてくる

すべてのものが

新鮮で

生き生きしている

(坂村真民 詩集より)

編集後記

毎日暑いですね。夜中まで暑いのはまいます。温暖化対策でCO2削減を、などと思っても現実の暑さの前にはエアコンをオンにする時間が長くなるばかりです。そういう時、50年後の世界を本気で考えることは意外と難しいと気づきます。50年後(勿論、私はこの世に居ません)の人達の心配よりも今の快適さを求める、それはそんなに悪いことだろうか、ひどいエゴだろうか、と考えると、まあそうでもないや、という結論になりエアコンの快適さにひたる毎日です。こんな人間ばかりですからなかなか世の中上手く行かないのでしょうね。総論賛成、各論反対。世の中こればかりですねえ。(KT)
